

会報

91号



函館の歴史的風土を守る会
会報編集部

発行所 函館の歴史的風土を守る会
事務局 函館市五稜郭町43-9
五稜郭タワー株式会社内
電話(0138)51-4785
印刷所 旬三和印刷 電話 45-0845

開港5都市景観まちづくり会議・長崎大会

来年(平成30年)は、「函館大会」開催



栄えある函館市市民貢献賞を受賞

会長 佐々木 馨

昭和53年に産声を挙げて以来、39年の間、市民運動の先駆けとして活動してきた私どもの「歴風会」が、平成28年8月1日、「市民貢献賞」を受賞しました。当該賞の団体部門の第1号を飾るものであり、関係者一同喜びに耐えません。これも偏に市民各位のご支援のお陰であります。心より厚くお礼申し上げます。

本会の2大イベントの一つである「函館の町並みを美しくする新春チャリティー・パーティー～町並み募金をつくる夕べ～」が、2月17日(金)、五島軒本店で開催されました。実行委員会の佐々木香委員長と中村大志副委員長のご尽力のもと、昨年に次ぐ280余名のご参加を頂きました。今一つのイベントの「開港5都市景観まちづくり会議」(長崎大会)にも参加し多くのことを学んでまいりました。実は、来年(平成30年)、「歴風会」が40周年記念を迎えるとともに「開港5都市」の「函館大会」の開催の年になります。大きな節目でもありますので、会員の皆さんのご支援とご協力を切にお願い申し上げ、御挨拶に代えさせていただきます。



平成28年度 歴風文化賞(第34回)

原風景 = 宣言文 =

大森浜
おおもりはま

函館市



函館市街地の南東部、津軽海峡を望む住吉漁港から松倉川河口まで続く大森浜。

浜の近くにはかつて大きく盛り上がった砂山があったことから大森浜と名付けられた。

大森浜を愛した歌人石川啄木はハマナスの咲き乱れる砂浜と砂山を散策し多くの詩を後世に残している。

昭和の函館大火ではこの浜で多くの尊い命が失われる悲しい出来事もあった。

過去から現在まで様々な歴史を見つめてきた「大森浜」は函館の原風景であることを宣言する。

保存建築物

藤田 昌平 邸
ふじた しょうへい

北斗市千代田48 藤田 昌平 様

この建物は、大野千代田地区で代々地主として農業を営む藤田家が明治期に建築した大規模な木造農家住宅である。明治34年に平屋の母屋と離れが建築され、その後大正3年に東側の2階建て部分と南東側の1室が増改築されている。

建物全体の外観意匠や外壁のささら子下見板張、縁側に取り付けられた連続した建具等から1世紀を超えた歴史的な重みを感じとることができる。

母屋の主室である茶の間の天井は他室と比べ高く、太い挿鴨居や囲炉裏の煙で黒光りしている天井板もこの建物に重厚感を与えている。

この建物は創建当時の姿で保存されており、明治後期から大正期における北斗市の住宅の歴史を知る上で数少ない貴重な建築物である。



母屋



離れ

再生保存建築物

ワインショップ 丸又和田商店 まるまたわだじょうたてん

函館市弁天町14-11

和田 一明 様

この建物は明治13年頃に建築された2階建て土蔵造りの店舗である。明治40年に曾祖父がこの店舗を引き継ぎ丸又和田商店として昭和40年まで営業を続け、現在も自宅として使用している。

施主は歴史ある店舗の再生が和田商店と地域のために意義のあることだと考えリノベーションを行い、平成28年3月に「ワインショップ丸又和田商店」として開業した。

外観は建物左袖に防火のためのうだつ、2階部分の洋風にデザインされたアーチ式窓周り、1階の和風店舗部分の意匠等が明治10年代の歴史的な姿を忠実に再現している。また店舗内部のカツラの太い梁等からも建物の歴史を感じることができる。

この建物は外観、店舗内共、創建当時の姿をしっかりと留めており、明治初期における函館西部地区の商家建築の歴史を知る上で貴重な建築物である。



個人賞

我妻 雅夫 氏
あがつま まさお

函館市本通2-26-7

我妻 雅夫 様

2007年から新島襄の脱国を題材にした劇を函館水産高校の生徒、卒業生に指導、生徒らが熱演する寸劇は毎年7月の海の日に披露、好評を得ている。

2008年からは大沼へ流入する河川水の水質調査や森林保全活動も行っている。近年は東日本大震災で被災した宮城県石巻市から復興のシンボルであるヒマワリの

種を譲り受け、水産高校で育てたヒマワリの種を函館市、北斗市で配布して復興支援の輪を広げている。

我妻氏の指導による様々な活動は、水産高校の先輩から後輩に引き継がれ多くの実を結んでいる。

我妻雅夫氏のこれまでの「郷土に根ざした実践活動」を高く評価する。

歴風文化賞選定基準

1. 建造物自体の貴重性
2. 持ち主が長年保存への努力を続けている
3. 景観への寄与
4. 歴史的性
5. 地域の町並みや社会全般への波及効果が大きい
6. 諸々の制約の中で創意工夫が顕著である

和やかな チャリティー一点描!



受賞者を前に挨拶する佐々木会長



辰村会員の「原風景」宣言



函館市へ町並み基金の贈呈



函館市の謝辞を述べる内藤部長



おおさか誠二代議士



開宴の祝杯 市教委 小林部長



前田一男代議士秘書(代理)



我妻先生グループ



大野文保研グループ



写真展入賞者席



会場風景



対馬栄子会員の女黒田節



かるろす鈴木JAZZ BAND



ビンゴの指揮者 我満会員



真剣な眼差し…クイズ!



恒例の「函館讃歌」で盛り上がる

実行委員長あいさつ

佐々木 香

函館市女性会議会長

今年度の実行委員長を仰せつかりました、函館市女性会議会長の佐々木香と申します。

副実行委員長には、北海道私立中学高等学校保護者会連合会 函館支部で、大変お世話になっております、函館白百合学園中学・高等学校 PTA会長の中村大志様にお引受いただきました。

この会に、少なからずも関わる事になりましたので、私なりに歴風会のこれまでの活動を少しだけ勉強させていただきました。

その中で『私ども函館市民がふるさとの歴史的環境の尊さを忘れていた事実を思い知らされて胸がうずく』との思いから、昭和52年9月28日付の北海道新聞に掲載された主婦 田尻聡子さんの投書がきっかけとなって「歴風会」が誕生したとありました。

私が会長を務めております函館市女性会議は、「女性の地位向上と男女共同参画社会の形成を目指した函館のまちづくりに貢献することを目的」として、昭和61年より31年間に渡り活動してまいりました。

「歴風会」設立のきっかけが、女性であったことと、毎年、このチャリティーパーティーの実行委員長と副実行委員長を男性と女性交互にお願いしているとお聞きし、男女共同参画の視点からも、非常に画期的で、先進的であることをとても心強く思います。

市民自らの行動と、市民の声を受け止めながら行政が取り組んできた函館の景観形成。観光客には分からない市民の悩み、行政と市民との意見の相違、そして行政の施策など、町並み保存が一筋縄ではいかないことを実感させるのが函館の歴史と言えるのではないで

しょうか。

函館の町並みを愛し、自ら行動し、行政に要望する市民、そして、それを受け止めていこうという行政の互いの存在がある限り、函館の町並みはこれからも守られていくのではないかと思います。

今日、この会場にお集まりいただきました皆様とは、決して偶然ではなく、必然的なご縁があってご一緒させていただいていることにも、心より感謝申し上げます。

最後になりましたが、歴風会を応援下さっている皆様に、心より厚く御礼申し上げますと共に、今年の

チャリティーパーティーが皆様にとって、かけがえのない楽しい思い出となりますよう心より願っております。



佐々木香実行委員長

中村大志副実行委員長の挨拶

副実行委員長あいさつ

中村大志

函館白百合学園中学・高等学校PTA会長

ご紹介いただきました中村です。

初めて参加させていただきました。

準備の段階から、事務局の方々の一生懸命さを感じておりましたが、今日、こんなに多くの方々が応援されているのを前にして、改めて感心した次第です。

現在、函館市民の平均年齢は50歳です。

私も、その年齢に達し、皆様に遅ればせながら、ようやく故郷の温かさや有難さを、感じ始めるようになりました。

そのような折に、副実行委員長という経験をさせていただき、とても感謝しております。

いずれにいたしましても、歴風会と皆様の益々のご活躍をお祈り申しあげ、簡単ではございますが、ご挨拶とさせていただきます。

歴風文化賞表彰式・チャリティーパーティーの運営と感想

運営委員 対馬 誠

今年度の歴風文化賞は「藤田昌平邸」、「ワインショップ丸又和田商店」「我妻雅夫氏」が受賞となりました。藤田邸、和田商店は明治時代に建てられており、函館市、北斗市の住文化を知る上で非常に貴重な建物であり、今後も末永く両地域の町並に潤いを与えてほしいと願っています。個人賞の我妻様は地元根ざした文化活動、環境教育、東日本大震災の復興支援活動を行う等、積極的な実践活動が評価されました。

チャリティーパーティーは佐々木香実行委員長、中

村大志副実行委員長のもと282名の参加者で盛大に開催されました。日舞、ジャズ演奏、抽選会、クイズ、ビンゴと盛り沢山の内容でお楽しみいただけたと思います。また終了時間が遅いとの意見があったので、今年は開始時間を18時からとしました。開始を30分早めたおかげで時間にゆとりができ、終了時間も早まり良かったと思っています。

来年度も楽しい「集い」にしたいと思っています。皆様の御協力よろしく御願いたします。

受賞者代表謝辞

歴風会文化賞表彰の御礼

我妻雅夫



受賞者挨拶 我妻雅夫氏

本日、栄えある歴風会文化賞をいただきまして、受賞者を代表し、一言お礼申し上げます。

私は、紹介文の中にあるとおり「新島襄脱国寸劇」「大沼の水質浄化活動」「大震災を忘れない“ひまわりプロジェクト”活動」など行ってきましたが、10年間にわたり活動を継続してこられたのは、ひとえに、一緒に活動してくれた生徒・卒業生、地域の支援者、活動に理解を示してくれた歴代校長のお陰だと感謝しています。ですから、今回の賞は、これらの人々、みんなでいただいた賞だと理解しています。

高校野球に名を残した明德義塾高校の蔦監督が「この子らを、大阪に連れて行きたかったんや」の言葉と同じく、私の心の中には「この子らに全国レベルを体験してほしい」という思いがあります。お陰様で、「高

校生聞き書き甲子園」,「S Y D ボランティア・アクション in 福島」には、ほぼ毎年、本校生徒の参加を認めていただいております。これも、過去に参加した生徒が一生懸命活動してくれた賜物だと思います。

私が、現在、新たに取り組んでいる活動は、「練習船にUW旗を掲げる活動」「ペリーロード再現航海」「函館空襲下の駆逐艦“橘”」「函館商船学校」「咸臨丸」「松前藩と伊達藩」「幕末期のアイヌ人骨盗掘事件」などです。

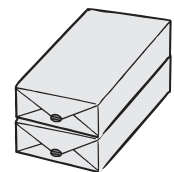
函館を中心にした道南地方は、多様な歴史と文化、建造物を有し、とても魅力的な街です。歴風会が目指す活動がすぐそばに眠っている街です。そのことに気付いて、活動してみるとわくわくすると思います。

最後になりましたが、受賞者一同、歴風会の名に恥じぬよう、今後も歴史と風土を守る活動に邁進する所存です。

この度は、本当に有難うございました。



チャリティパーティのビンゴ商品のご提供
ありがとうございました



第39回函館の町並みを美しくする新春チャリティパーティへの 景品のご提供に御礼申し上げます。

五稜郭タワー(株)、(株)五島軒、函館山ロープウェイ(株)、(株)オオタカ函館、(株)青函設備工業、中島孝内科循環器科医院、北海道コカ・コーラボトリング、(株)ニューメディア函館センター、(株)URK環境設計研究所、STYLISH SALON HAIR PIECE・AKITA、ギャラリー杉本、POPくらぶ、花かるた、(有)三和印刷、(有)タカオ工業、金森商船(株)、(株)元町マリンハウス、(株)リード不動産、料亭・富茂登、(有)カーショップ・ニシノ、(医)大庚会、旧相馬邸、原田組、坂本仕出し店

(歴風会会員)	佐々木 馨	落合 治彦	清野 恒夫	吉村富士夫	新城 光正	里見 泰彦
	石井 満	柳田 真宏	斉藤 サダ	桜井 拓郎	原谷 紀昭	島 昌之
	安井 徹	石田 恒彦	小山 直子	薩来 俊彦	対馬 誠	辰村 和子
	斉藤 光子	対馬 栄子	我満 陽子	今 千尋	田島 優子	中島マキコ
	児玉 幸子					

(順不同・敬称略)

※記載もれがありましたらご容赦ください。

第14回 ふるさと写真展開催



【今年はまちセンでの受賞記念写真】



【金賞受賞作品】



【歴風会長賞受賞】

今年で14回目を迎えた写真展、今年は73点の作品があつまりました。昨年より出品数は少なくなりましたが、昨年なかった北斗市から優秀な作品が寄せられました。

新幹線が開通し、「はやぶさ」も登場しました。子供達の作品には依然として乗り物が人気です。

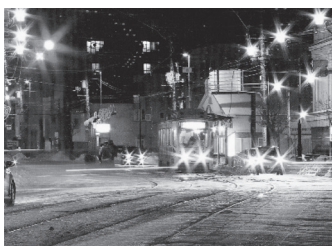
新幹線開通で多くの観光客が魅力度No.1の函館を訪れていますが、若い世代が函館の歴史ある建物、そして風土を知ることが大事です。この写真展を通じて、いくらかでも手助けになればと考えています。

応募受付にご協力いただいた五稜郭タワー、五島軒の皆様方に感謝申し上げます。

(運営委員 新城光正)



【企業局長賞受賞作品】



【銀賞受賞作品】



【銀賞受賞作品】



【銀賞受賞作品】

《入賞者氏名》(敬称略)

- ▶金賞 山科 琴子 (附属小3年)
- ▶歴風会長賞 砂原由妃乃 (附属中2年)
- ▶企業局長賞 干山 雄人 (大野農業高1年)
- ▶銀賞 原田 圭都 (大野小3年)
- ▶銅賞 後藤奈々美 (深掘小4年)
- 阿久津慶治 (附属中2年)
- ▶佳作 加藤りのあ (附属小6年)
- 田村 正幸 (附属中1年)
- 後藤奈々美 (深掘小4年)
- 年代 麻優 (亀田中3年)
- 佐藤 水紀 (稜北高1年)

〔カメラに夢中!〕
〔この街に生まれて〕
〔夢に向かって進む〕

松原 亜門 (ラ・サール中2年) 干山 雄人 (大野農業高1年)
山木 歩 (ラ・サール中3年) 宮島 康樹 (的場中2年)

ポタサニャー花 (附属小1年) 菊池 美優 (附属中1年)
窪田 頼人 (昭和小学5年) 伊藤 陸翔 (桔梗小1年)
吉本 有秀 (亀尾中3年) 山木 歩 (ラ・サール中3年)
宮島 康樹 (的場中2年) 坂本 裕貴 (潮見中2年)

開港5都市景観まちづくり会議・長崎大会に参加して(寄稿)

函館市都市建設部都市デザイン課 鈴木 誠一

私にとって初めての参加となった長崎大会は、3日間の全日程を通して参加者を飽きさせない素晴らしい企画の連続で、会議を主催する長崎の人達のおもてなし感満載の大会であった。



今回の長崎大会では「継承と発展次の世代の景観まちづくり」をテーマに掲げ、次世代を担う若者による企画が数多く用意されていたほか、まちづくりに

関する様々な取り組みをどうやって次世代に伝えていくかといった話を軸に進められた。

少々固い話になるが、ここでは最終日に行われた「行政会議」について紹介したい。

「行政会議」には、長崎大会に参加した各都市の行政職員が集まり、各都市における景観や夜景、まちづくりなどに関する様々な課題への対応や取り組みについての意見交換が行われた。各都市から挙げられたテーマは以下のとおりである。

- ①夜間景観に関する各都市の取り組み、課題、留意点について(長崎市)
- ②景観法に基づく規制以外で法定外の景観に関するガイドラインを策定・運用している場合、その内容、策定に係る過程、課題や留意点について(長崎市)

- ③主要な駅周辺あるいはメインストリートの景観形成についての事例、その内容および決定過程、取り組み、留意点について(新潟市)
- ④景観づくりの活動を拡げていくための景観教育・学習や市民との協働・連携を念頭に置いた、各都市での市民による景観づくりの普及に係わる継続的・効果的な取り組みについて(横浜市)
- ⑤行政による景観づくりの成果やその評価方法の特徴的な事例について(横浜市)
- ⑥景観まちづくり会議が開始してから20年以上を経過し、内容のマンネリ化や参加者の固定化といった課題を抱え、この会議の意義、あり方、運営について見直しが必要と考えるが各都市の意見はどうか(神戸市、横浜市)

特に⑥の本会議のあり方については、会議開催の意義や一定の効果はあるとしつつも、課題についてはどの都市も同じ認識を持っており、何らかの見直しが必要と感じているようであった。今回は意見交換に終わったが、この件については以前から何度か話題に挙がっているものであり、今後、機会を設けて議論を深めていく必要があると感じた。

次回の新潟大会の次はいよいよ函館大会を迎える。

今年はそれに向けて実行委員会を組織し、準備を始めることとなるが、他都市からの参加者にとっても、もてなす側の函館市民にとっても、有意義な大会となるよう市民団体の皆さんと一緒に函館大会を盛り上げていきたい。

FG(Future Generation)部会主催のプログラムについて(寄稿)

Code for Hakodate 中村 拓也

恥ずかしながら函館の高校在学中から景観まちづくりの分野に興味を持っていたのですが、最初にこの取り組みを知ったのが2014年、当時住んでいた縁で横浜大会から参加しております。その際「オープンデータ^(※1)」とスマートフォンのアプリを組み合わせたまち歩きなどを体験する分科会、翌年の神戸大会とで長崎市役所の平山広孝さん^(※2)とお会いしていたこともあり、長崎大会へのお誘いをいただきました。

(※1): 出展明記のもと、自由に利用可能なデータ。統計や公共交通のデータ、Wikipediaの記事も含まれる

(※2): 在学中の2010年に「長崎都市・景観研究所 (null)」を設立、現在も活動中

その平山さんが中心となって今回2016年の長崎大会では新たに「FG (Future Generation) 部会」が設けられました。次世代の若者たちが集まり、1日目の「開港5都市『イケてる〇〇』合同写真展示」、2日目の「FGだよ全員集合! DEJIMAでパーリナイ☆」、

3日目の「FG会議」が企画されました。

本稿では「FGだよ全員集合～」を紹介します。各都市の若者間でプレゼン大会、情報ミニブース設置、意見交換会等を行いました。プレゼン大会では発表順に函館市(私と宮川多恵さん)、横浜市(建築家の番場俊宏さんと横浜市都市デザイン室の入江碧さん)、新潟市(「まちごと美術館」の肥田野正明さん)、その後ホストの長崎市は先述のnullの他にも、「長崎新社会人ネットワーク」、「U-30からはじめ



司会の平山広孝さん(「FGだよ全員集合! DEJIMAでパーリナイ☆」にて)



「FGだよ全員集合！ DEJIMAで
パーリナイ☆」の様子

る長崎まちづくり会議」のメンバーによる発表がありました。

「新社会人」、「U-30 (30歳未満)」などの言葉が並んでいるように、長崎市には20～30代が活動するまちづくり系団体の層の厚さを感じま

す。(全体会議での発表、分科会2で立ち寄った「つくる邸」を運営している「斜面地・空き家活用団体つくる」は代表の岩本論さんををはじめ20代が運営しています。)

函館にもいくつか学生団体がありますが、そのメンバーが卒業後は活動の時間が確保できないことや、希望する仕事が函館で見つけられないなど、様々な課題を耳にします。それでも函館に残って活動する新社会人もわずからながらおります。今後はそのような人たちと緩くてもよいので連携をしていければと思います。

開港5都市長崎大会に参加して(寄稿)

一會の会 林 田鶴子

市長が述べた言葉として、ただ道路をつくるだけであれば1の価値なのが少し工夫したり何かをプラスすることで価値が10ぐらいになる。

そして1年では気づかないかもしれないけれども、10年経つとこうした個々のプロジェクトの集積でまちが大きく変化し、まち全体の価値が百、千のプラスになる。

まちの中に素敵なものが増えるのは市民の憩いにも、観光客の快適さにもつながる。

その中で次のまちづくりへのもっとよくしていこうというエネルギーが生まれていくきっかけになると思っています。それが景観の大事な役目かなと思います。

そして職員は基本はみな「いいもの」をつくりたいと思っているのですが、予算や時間の制約、あるいは技術的な未熟さなどで、イメージだけあってもすぐには実現できないもどかしさを持っています。質の高い公共空間を残していくためにはその仕事に携わる職員の意識が育ち、安定して高いレベルのものをつくっていけるのかという問題意識をもちました。

それで 長崎のまちにとって価値ある公共空間に向けた質の向上

自治体職員の「働き方」(意識、技術力、人間力の改善)

この二つの役割を一体的に推進することができると考え、世界新三大夜景、日本新三大夜景に選ばれたことなどもきっかけとして、百年後の長崎をつくる10年

として、景観計画を作り、景観専門監を設置したのです。

分科会3「深イイ歴史in深堀」

景観計画の一つ 平成24年度に長崎市景観形成重点地区に指定され、歴史を活かしたまちづくりに取り組んでいる。深堀地区を まちあるきしました。

深堀地区は長崎市南部に位置し3000年前の遺跡があり鎌倉、室町時代には、長崎唯一の城下町として栄えたところです。

- 1 武家屋敷跡や石堀を中心とする歴史的遺産を継承し、かつての城下町としての趣を感じさせる歩いて楽しいまちなみの形成を図る。
- 2 陣屋跡などの眺望点からの眺めを確保し城山や深堀漁港といった周辺の自然環境と一体となった景観形成を図る。
- 3 低層を主体として住宅により構成される、落ち着いたある住宅地の景観形成を図る。
と ガイドラインを作り、建物の高さや色の決まりをしました。

深堀地区のなつかしいカレンダーや、歴史カルタを作り人々の意識をたかめようとしていました。

まだまだ、観光客？としては魅力を感じることはできませんでしたが、今後の深堀地区がどのように素敵になっているのかを楽しみにしていきましょう。

2016長崎大会、分科会「斜面地の未来をさるく」に参加して(寄稿)

和信化学工業㈱ 宮川 多恵

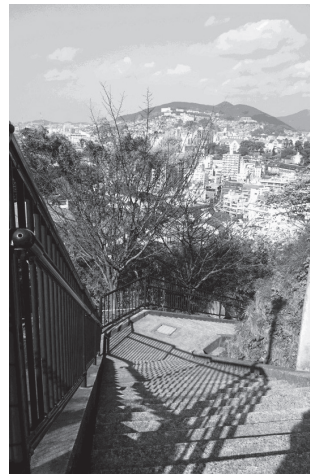
11月はじめの北海道はもう冬到来の時期でコートを着ての出発だったが、長崎空港からバスで1時間揺れて降りると外は暖かな空気に包まれていて、会場のホテル周辺の坂の上から見える港の景色も穏やかであり、なるほど日本は縦に長く広いのだと改めて感じた。

初日のパネルディスカッション、ウェルカムパーティーは長崎の地域愛と文化、そして幅広い子供から大人それぞれの合唱団の歌声に触れられた密度の濃い1日で

あった。

その後2日間、長崎の夜では地域の景観やまちづくりを様々な感性から熱く思っている長崎の若者と語り合える、貴重で有意義な時間を過ごすことができたのだけれど、次の日の切り替えに少し労力を要してしまうことになってしまった。しかし浜町や新地の夜の風情や隠れた店が佇む街並みは長崎を大好きになってしまいう大きな要素の1つである。

そのような朝を迎えて出発したく分科会・2>は新地を抜け唐人屋敷跡のお堂巡りから始まり、斜面地を縫って歩いていく。勾配の角度もすごいがそんな土地に根を張って生活をしている長崎の人々の住居や店舗の工夫がすごく、建て増しされた家の段差や外にあえて出したままの水道管のつなぎ目にアーティスティックなものを感じてしまった。細い路地を進み、ここも道なの？といったところばかりであるがみんな迷宮に入っているような、誰もが長崎の野良猫になったような気分。ご当地の元気なさるくガイドの巧みな説明と、空き地もできてはいるがそこに木々や花が咲いていて、古びた建物と相まって昭和ノスタルジックな空間があった。この街並みはそのまま観光資源になるだろうし、生活を営む斜面地の住民たちとの共存の課題もある。その場所に、若者とそこの生き字引になるであろう住民と一緒に考え進めている「斜面地全体が居住空間構想」や「古民家コミュニティスペース利用」の活動は日々の日常に溶け込んでいて、年代を超えて地域のことを思う長崎の人々の姿勢に感銘を受けた。まちづくりとはこのようなものなのだとつくづく実感した。



細い迷路のような路地ではないが、函館にも坂があり、洋館とノスタルジックな建築物が立ち並ぶ街並みがあり、この景観を大切にしたいと思う市民がいる。長崎の活動は函館にも通じてできるものである。再来年に函館市で開催されるときに、長崎で感じた楽しいマニアックな散策を提供できるようなまちづくりにこれからも一企業から協力していきたい。

開港五都市景観まちづくり会議2016長崎大会に参加して

運営委員 里見 泰彦

一年ぶりの開港五都市。長崎市の熱い息吹に触れて思いを新たにしたい。世界新三大夜景に選ばれたことを契機に夜景に関係する打ち手が次々に打たれている。フェラーリなどの設計で名をはせた世界的デザイナー奥山清行氏にロープウェイゴンドラの設計を依頼、これまた世界的に活躍するバイオリニスト葉加瀬太郎氏に夜景をテーマにした曲を依頼、「長崎夜曲」としてリリースされている。田上長崎市長は「求めたわけではなかったが指定されてしまったので手を打っている」と笑っていたが、機を見るに敏、したたかな観光戦略である。

分科会は第三分科会に参加した。参加費2000円(バス、船、食事)。

「深イイ歴史in深堀」という若干判じ物のようなタイトルであるがいたってまじめなツアーでこの地区を愛する人たちがこれから観光スポットとして育てていくという意気込みが感じられた。地域でまもり、そだて、つくっていく観光地の典型、50年後くらいには歴史ある観光地としてガイドブックに載るように祈りたい。

ルート 長崎⇒深堀地区⇒伊王島⇒高島炭鉱北溪井坑(軍艦島も遠望)⇒長崎(出島)

◆深堀地区散策

(1)歴史的な事物は多いとは言えない

- ①貝塚、石器、縄文土器、石棺など発掘物が深堀貝塚資料館に貯蔵陳列
- ②見事な石堀に囲まれた武家屋敷一軒
- ③深堀神社の石の鳥居に神社の由来が刻まれている。圓城寺石堀、鐘楼。

(2)民俗学的な事物として石の恵比寿が各所に祭られている。風化に弱いとかで表面に塗装が施されている。

(3)この地区をどのように作り上げていくか取り決めがなされており、道路の色、家の高さ、色、形、植木など規制がある。

(4)90歳ガイドの熱い語り口がこのプロジェクトの成功を暗示しているように感じた。

◆伊王島 昼食

◆世界遺産高島炭鉱見学

グラバーなどの出資による幕末から昭和まで100年以上にわたり日本のエネルギーを支えた日本屈指の炭鉱。

◆長崎へ

船で長崎港を見学しながら帰路へ。ここでは途中居留地研究会の方が港の説明にあたる。出島は専門のガイド付き。



武家屋敷石堀



高島北溪井坑

開港5都市長崎大会 報告会

運営委員 小山 直子

12月10日、まちづくりセンターにおいて開港5都市長崎大会報告会が開催されました。街づくりや景観保存等に取り組む6団体が参加、長崎大会に参加した4名から映像等を交えて報告をしていただきました。報告に共通していた点は、長崎の街づくりが官民の連携がしっかりと取れた中で進められていること、まちや人に勢いがあること、そして神戸・長崎共に「新3大

夜景」のPRに非常に力が入っているということでした。

その後の意見交換で、函館のまちや夜景を魅力あるものにするために今後も話し合いを続け、いずれ市長のタウントーキングに参加し、夜景や街づくりについて提案するということになりました。

平成29年度「五稜郭の文化価値を考える会」の開催予定講演と講座

- 第1回講演会 4月29日(土) 木下寿実夫〈文保研会長〉「大野の歴史散歩」
 第2回講演会 6月16日(金) 井上 能孝〈元北海道教育大学講師〉「五稜郭築造—武田斐三郎なればこそ—」
 第1回講座 8月25日(金) 茂木 治〈元中学校教諭〉「五稜郭の周囲と陣屋」
 第2回講座 10月13日(金) 沼崎 孝男〈元五稜郭奉行所館長〉「箱館奉行所開設のころ—復元に生きる職人の技」
 第3回講座 11月17日(金) 木村 朋希〈五稜郭タワー企画室長〉「明治期以後の五稜郭」
 第4回講座 12月15日(金) 野戸 崇治〈NPO「箱館写真」の会〉「箱館友好と五稜郭」
 第5回講座 2月9日(金) 清水 憲朔〈はこだて居留地研究会会長〉
 「村垣淡路守の安政元年と同3年の蝦夷地調査」

会 務 日 誌

H28. 6. 2

第1回運営委員会

H28. 7. 8

第2回運営委員会

H28. 8. 25

第3回運営委員会

「見て、聴いて、考える町並み」打ち合わせ

H28. 9. 23

第4回運営委員会

第5回運営委員会

H28. 11. 24

第6回運営委員会

H28. 12. 24

第7回運営委員会&CP第1回実行委員会

H29. 2. 11

第8回運営委員会・CP第2回実行委員会

第14回ふるさと写真コンクール 表彰式

H29. 2. 17

第34回歴風文化賞授与・町並み基金贈呈式

H29. 3. 9

第9回運営委員会CP第3回実行委員会及び
ご苦労さん会

H29. 4.

第10回運営委員会

歴風会運営委員会	10回
五稜郭の文化価値を考える会理事会	7回

** 編集後記 **

- ◇会報91号の発行に際し、玉稿いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。
 ◇2月17日「第39回新春チャリティー」。実行委員長の佐々木香様、副実行委員長の中村大志様の御尽力で、昨年同様盛大裡に無事終了出来ました。御参会の皆様への暖かい御声援いただき、会員一同心から感謝申し上げます。
 ◇恒例となりました“小・中学生、高校生による、ふるさと写真展”は新城会員1人に負う所大、厳しく反省されるべき当会の今後の課題の1つであろう。新城会員の尽力で、2月11日表彰式、入賞者をチャリティーに招待しました。
 ◇“チャリティー”は対馬栄子会員の日本舞踊で開幕、我満会員奮闘のビンゴで盛り上がり30分間繰り上げ所要時間内で終了出来た名コンダクター対馬

誠会員の賜と感謝。

- ◇特集した開港5都市長崎大会報告、紙面の都合で若干編集させていただいた非礼お詫びします。
 ◇今号の写真は、函館市役所、里見泰彦、新城光正、対馬誠会員、鶴沼ワカ様、大野文保研様によりました。

(文責 落合治彦)

「歴風会新会員の募集」

当会では、新会員のご入会を募っております。
 会費は年会費として

- ・個人会員会費 3,000円
- ・個人学生会費 1,000円
- ・団体会員会費 5,000円

多くの方のご入会を心よりお待ちしております。